

# 三八上北の国有林



緑あふれる奥入瀬溪流（十和田市）



日本の緑・国有林

三八上北森林管理署

林野庁・東北森林管理局

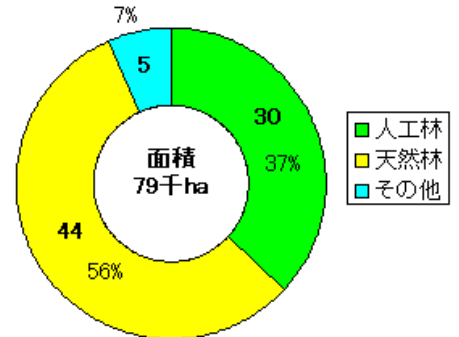
# 1 国有林の現況

三八上北森林管理署は、青森県の南東部にあり、下北半島の付け根から八甲田山と十和田湖の東側を経て、岩手県境に至る、3市11町2村（三八上北森林計画区）の国有林、約79,000haを管理しています。

森林は、太平洋岸にある低山帯の防風林から、八甲田山系・高田大岳（1,552m）などの高山帯におよび、スギやアカマツの人工林の比率が4割、ブナやヒバを主体とする天然林が6割を占めています。

## <管内の市町村>

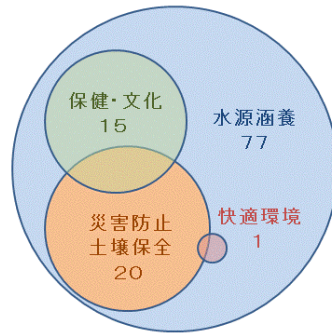
十和田湖と奥入瀬溪流の「十和田市」のほか、「八戸市」、「三沢市」、上北郡には、菜の花で地域活性を図る「横浜町」、交通の要衝「野辺地町」、東北新幹線の駅がある「七戸町」、風力発電などの「六ヶ所村」、ナガイモの「東北町」のほか、「六戸町」、「おいらせ町」、三戸郡には、ニンニクの「田子町」のほか、「三戸町」、「新郷村」、「五戸町」、「南部町」、「階上町」があります。



# 2 森林の取扱い

国有林では森林の役割に応じて「水源涵養」「山地災害防止/土壌保全」「快適環境形成」「保健」の4つの機能に分け、それぞれに適応した森林の管理・経営を行っています。

公益的機能別施業森林の内訳(千ha)



## 水源涵養機能

草や木の根により、水を蓄える隙間に富んだ土壌を有する森林

### <水源林>

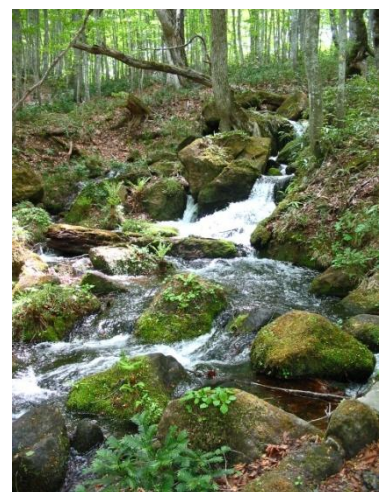
地域住民の生活用水や農業用水を供給する「水源林」としての役割はたいへん重要です。奥入瀬川流域の森林を水源としている稲生川（人工河川）は、今から約150年前に、三本木原（十和田市）の開拓のため、南部盛岡藩士・新渡戸傳（稲造の祖父）から3代で開削したもので、現在約6千haの田畑を潤しています。

## 山地災害防止/土壌保全機能

森林の中に適度な光が射し込み、草や木の根が深く広がって土壌を保持する森林。必要により山地災害を防止する施設を整備

### <治山事業>

この地域では、八甲田山など火山性の地質による泥流・地すべり災害、山間部での集中豪雨による土砂災害の危険があることから、地域住民の安全確保のための治山工事や森林整備を行っています。



奥入瀬川の源流（十和田市）



間伐材を活用した木製谷止工（十和田市） 津波災害復旧工事（三沢市）



## 保健・快適環境形成機能

自然とのふれあいの場として利用したり、自然景観や歴史的風致、原生的な森林生態系、希少な生物がいる森林

八甲田山、十和田湖、奥入瀬溪流に代表される十和田八幡平国立公園、山岳・湖沼など豊かな自然を背景とした観光資源に恵まれており、四季を通じて大勢の皆さんが訪れます。

### <レクリエーションの森>

国有林では優れた景観を有し、森林浴や自然観察、野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」に指定しています。

迷ヶ平<sup>まよがたい</sup>自然休養林（407ha 新郷村・三戸町）のほか、自然観察教育林として烏帽子岳<sup>えぼしだけ</sup>（409ha 野辺地町）と鳶沼<sup>つたぬま</sup>（94ha 十和田市）、野辺地スキー場（46ha 野辺地町）、みろくの滝風景林（4ha 田子町）などがあり、地元市町村、事業者等により様々な施設が整備されています。



みろくの滝風景林（田子町）



鳶沼自然観察教育林（長沼）



幌内山国有林のブナは樹高 29m  
幹周りが 6.01m あります。  
（十和田市）

### <森林ボランティア>

国民参加の森林づくりの場として「ふれあいの森」（20ha）を設定し、様々な団体、企業の社会貢献等による森林ボランティアを受け入れています。

### <森林環境教育>

三本木高校附属中学校による「遊々の森」や、法奥小学校での森林教室など、森林を活用した教育を支援しています。



附属中学校「夢と希望の森」ブナ植樹



青森県生活協同組合連合会の「ふれあいの森」



法奥小学校森林教室



### ＜貴重な生態系の維持＞

生物多様性の維持も国有林の重要な仕事です。

原生的な自然環境の保全や貴重な野生動植物を保護するため、「八甲田山森林生物遺伝資源保存林」(3,823ha)、建築材として有名な南部アカマツの系統である「横沢山甲地松植物群落保護林」(2ha)などを指定しています。

また野生動植物の移動経路などを確保するため、奥羽山脈から白神山地へ至る70km、7,347haを「奥羽山脈緑の回廊」と「白神八甲田緑の回廊」に指定しています。



横沢山甲地松植物群落保護林（東北町）



八甲田・高田大岳（十和田市）



保護林のパトロール

### 森林・林業再生プランの実現

戦後造成された人工林が利用期を迎えており、森林・林業再生プランでは、路網整備や機械化により、10年後に木材自給率50%をめざしています。

地球温暖化対策として再生産可能な資源である森林を利用し、東日本大震災の復興用材など木材の安定供給に取り組むとともに、民有林との連携による低コスト林業現地検討会、間伐材の販売などを通じて地域と連携した林業の再生に取り組んでいます。



低コスト林業現地検討会（六ヶ所村）



ハーベスタによる間伐材の伐採・造材

### ＜国有林の活用＞

国有林野を活用して、風力発電所（六ヶ所村）や送電幹線（東北電力）などが建設されています。



風力発電（六ヶ所村）

平成 26 年度主要事業量（当初）

収穫量

m<sup>3</sup>

立木販売・保育間伐ほか			製品生産資材			計		
主伐	間伐	計	主伐	間伐	計	主伐	間伐	計
57,911	10,428	68,339	769	124,395	125,164	58,680	134,823	193,503

製品（丸太）販売量

m<sup>3</sup>

公 売	委託販売	システム販売	計	(当年度生産量)
0	10,108	34,638	44,746	(44,000)

造林量

ha

新植	下刈	除伐	除伐Ⅱ類	本数調整伐
49	539	0	81	143

組 織

【本署】(十和田市)

署 長

次 長

森林技術指導官

【総務グループ】

総括事務管理官

主任事務管理官(総務)

事務管理官(経理)

事務管理官(管理)

【業務グループ】

総括森林整備官

主任森林整備官(経営)

主任森林整備官(森林育成)

主任森林整備官(資源活用)

主任森林整備官(土木)

森林整備官(経営)

森林整備官(資源活用)

森林整備官(森林ふれあい)

【治山グループ】

総括治山技術官 ——— 治山技術官

【森林事務所・森林官】(所在地) 電話番号

奥 瀬 (十和田市奥瀬)	0176-72-2120
法 量 ( " )	"
八 溪 山 ( " )	"
野 辺 地 (野辺地町)	0175-64-2180
北 坪 川 (七戸町森ノ上)	0176-68-2149
七 戸 ( " 筑田)	0176-62-2945
横 浜 (横浜町屋敷形)	0175-78-2212
六 ヶ 所 (六ヶ所村尾駸)	0175-72-2036
田 子 (田子町田子)	0179-32-3311
戸 来 (新郷村戸来)	0178-78-2014

斜線は空きポスト

【 職員数 】

平成 26 年 4 月 1 日現在

本署 (十和田市)	森林事務所	行政専門員	計
20	10	2	32

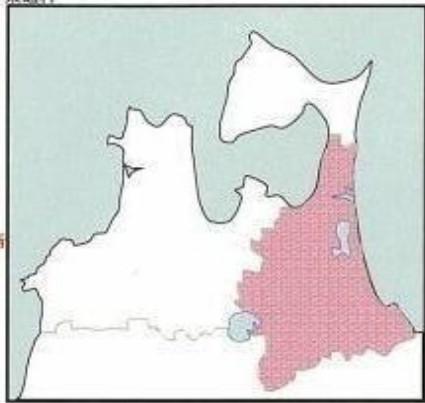
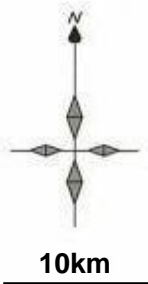
三八上北森林管理署の歴史

- 明治 14 (1881) 年 農商務省山林局設置
- 19 (1886) 年 青森大林区署五戸派出所として開庁、明治 25 (1892) 年 奥瀬小林区署と改称
- 40 (1907) 年 法量小林区署、五戸小林区署と合併し、三本木小林区署と改称
- 大正 3 (1914) 年 現在地に庁舎建造
- 13 (1924) 年 官制が改められ青森営林局三本木営林署と改称
- 平成 11 (1999) 年 3 月 1 日 組織再編により三八上北森林管理署と改称し、野辺地営林署を野辺地事務所に、三戸営林署を三戸事務所に改組
- 13 (2001) 年 8 月 1 日 組織の再編により野辺地事務所及び横浜森林管理センターの一部を統合し、三八上北森林管理署及び三戸事務所に再編
- 16 (2004) 年 3 月 31 日 組織再編により三戸事務所を統合
- 19 (2007) 年 2 月 庁舎建て替え



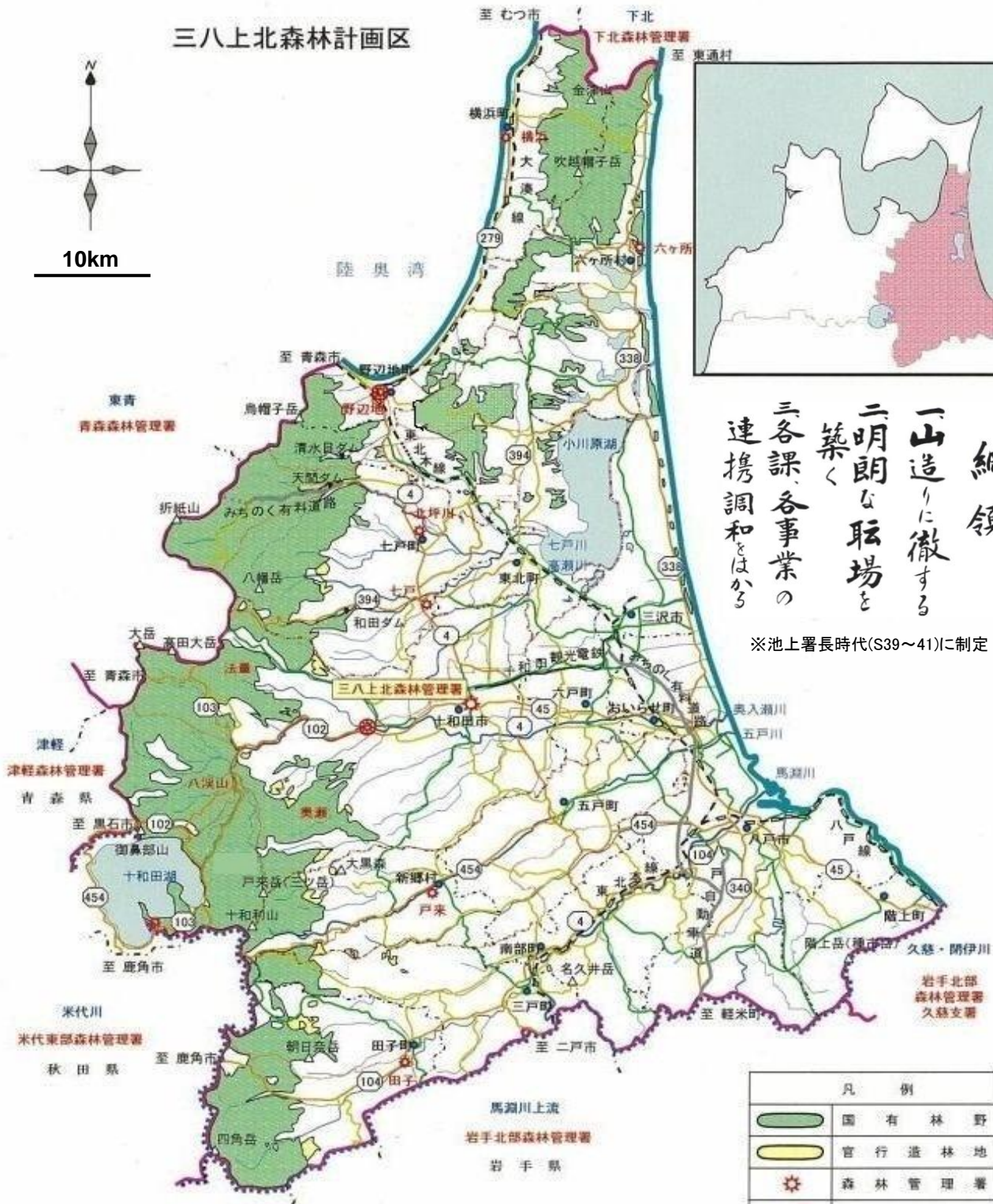
# 管内図

## 三八上北森林計画区



綱領  
一山造りに徹する  
二明朗な取場を築く  
三各課、各事業の連携調和をはかる

※池上署長時代(S39~41)に制定



凡例	
	国有林野
	官行造林地
	森林管理署
	森林事務所・合同事務所
	森林計画区界・署界
	県界
	市町村界
	森林事務所界

三八上北	森林計画区名
	市役所・町村役場
	国道・県道・その他道



三八上北森林管理署

〒034-0082 青森県十和田市西二番町 1-27  
 電話 0176-23-3551 FAX 0176-24-2020  
 メール : t\_sanpachi@rinya.maff.go.jp  
<http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/sanpati/>